

## 家庭科における評価について

### 1 評価の基本的な考え方

家庭科の指導は、教科目標の実現を目指し、適切な題材を設定して指導計画の作成、授業実践、評価という一連の活動を通して展開されている。

生徒の学習状況の評価は、目標の実現状況をみると同時に、教師の指導計画・指導方法等が適切であったかどうかを反省し、学習指導の改善に生かすために行っており、今後一層、指導と評価の一体化を図るとともに、学習指導の過程における評価の工夫を進めることが重要である。

### 2 専門教科「家庭」の評価の観点とその趣旨

( 評価の観点であると同時に、学習指導の観点でもある。 )

観 点	観点の趣旨 専門「家庭」
関心・意欲・態度	家庭に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
思 考 ・ 判 断	家庭に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。
技 能 ・ 表 現	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。
知 識 ・ 理 解	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家庭生活の意義や役割を理解している。

### 3 評価にあたっての留意点

ア 実態に応じた評価規準を作成する。

- ・ 評価規準は、生徒の実態、題材の指導目標等に応じて作成する。  
指導目標と評価の観点の明確化……評価の観点ごとの評価規準の設定  
指導計画と評価計画の作成

イ 個に応じて柔軟に評価する。

- ・ 生徒一人一人のよさを評価できるよう、評価項目や評価の場面を柔軟にし、個に応じて評価する。

ウ 評価方法を工夫する。

- ・ 実際の学習活動に即した多様な評価方法を工夫する。  
指導過程での様々な場面での評価

エ 継続的に評価する。

- ・ 毎時間の指導目標の実現状況を補助簿等を工夫して記録し、継続的に把握し評価する。

オ 評価を指導に生かす。

- ・ 個に応じた支援的な指導との一体化を図る。
- ・ 生徒のよさを多面的、継続的に評価し、生徒を励まし生かす。
- ・ 評価の結果から、題材、学習過程、助言などの支援の仕方を見直し、指導に生かす。